

あいちビジョン 2030 について

(1) 2040年頃の社会経済の展望

ア 感染症・災害・犯罪リスクの増大

2019年12月に中国の武漢で確認された新型コロナウイルスは、世界全体で感染し、多くの人々の命を奪うとともに、都市封鎖や出入国制限などの感染拡大防止の取組により、人々の日常生活や経済活動に厳しい制限をもたらし、世界の経済・社会に深刻な影響をあたえるなど、多くの人々に感染症のリスクを強く認識させた。

また、本県に甚大な被害をもたらすおそれがある南海トラフ地震が今後30年以内に発生する確率は70～80%とされており、発生の切迫性が高まっている。

イ 人口減少の進行・人生100年時代の到来

わが国の人口は2008年をピークに減少を続けており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年には約1億1千万人となることが見込まれている。一方、本県の人口は出生率が現状程度で推移する場合2020～2025年頃ピークに減少に転じる見通しであり、2040年には約720万人と2020年の人口と比較して36万人程度減少する。

ウ 暮らし・労働・学びの多様化

テレワークや教育のICT環境の整備などが急速に加速し、社会のあらゆる場所でICTを活用したサービスが展開されていく。

AIやロボットの社会実装が進むことで、業務の省力化や無人化が進むとともに、新たな職種や職業が創出されることにより、社会が求める能力も変化していく。

エ 世界的な人材獲得競争の激化

今後、ICT技術を活用したビジネスの創出が世界で加速していくことが想定され、そうした専門的な技術を持った優秀な人材が世界で益々求められていく。特に、AIやゲノム研究など先端技術の分野を中心に世界的な高度人材の獲得競争が一層激化していくことが見込まれている。

(2) めざすべき愛知の姿

①危機に強い愛知

新型コロナウイルス株の感染症を始め、南海トラフ地震の発生や気候変動による風水害の激甚化といったリスクの増大が想定される。いかなる危機に直面しても被害を防止又は最小限に抑え、県民の生命・財産を守るとともに、速やかに社会経済

活動を再開し、我が国の発展を力強くリードしていくことができる危機に強い地域づくりが求められる。また、交通事故や犯罪被害、消費者トラブルなど日常生活に潜むリスクを的確に対応し、誰もが安心して暮らせる地域をめざすことが重要である。

②すべての人が生涯にわたって活躍できる愛知

今後、AI、IoT、ロボットなどの技術革新の急速な発展により、社会経済の大きな変化が見込まれる。ICT化による多様なライフスタイルの広がりや、外国人県民の更なる増加など背景に、社会で多様性を受け入れていく必要性が益々高まっていく。人口減少や高齢化が進行する中でも、地域社会を支えていくためには、一人が複数の役割を担っていくことが期待される。

そのため、多様な価値観を認め合う寛容さを持ち、自分の可能性を高めて、次の時代を切り拓いていく人材を育成するとともに、すべての人が豊かな時間を楽しみながら、望む形で役割を担うことができる社会を作っていく。そして、「人生100年時代」において、お互いが支え合いながら、地域で安心して暮らし、生涯にわたって輝き、活躍できる社会を実現しえいく。

③イノベーションを創出する愛知

国内需要が減っていく一方、アジアでは富裕層が急増し、巨大なマーケットが形成されていく。そうした中、世界的な人材獲得の激化により、高度人材や必要な労働力が確保できなくなるおそれがある。また、第4次産業革命の進展により、AI、IoT、ロボット等先端技術が経済活動を始め、幅広い分野において活用され、産業構造や人々の働き方、ライフスタイルを大きく変えていくことが見込まれる。

④世界から選ばれる魅力的な愛知

リニア中央新幹線の全線開業により人口7千万人のスーパー・メガリージョンの形成が期待される。一方、地域によっては、人口減少が進行し、空き地、空き家の増加など、都市がスポンジ化していくことが見込まれる。また、ゆとりある生活環境を形成しえいる強みを維持しつつ、持続可能なスマートな地域づくりを進めていく。

あいちの重要政策の方向性

目標すべき姿の実現に向け、基本的な視点を持った上で、以下の6つの柱に沿った施策を実施していきます。

1. 危機に強い安全・安心な地域づくり

- ◆ 新型コロナウイルス感染症の克服
- ◆ 新たな大規模感染症リスク等への対応
- ◆ ハード・ソフト両面からの防災・減災対策
- ◆ 安心して暮らせる地域づくり

2. 次代を創る人づくり

- ◆ 創造性を伸ばす教育の推進
- ◆ 多様性を尊重する教育の推進
- ◆ グローバル人材の育成
- ◆ 魅力ある学校づくり

3. すべての人が生涯にわたって活躍できる社会づくり

- ◆ 女性の活躍促進
- ◆ 高齢者の社会参加の促進
- ◆ 若者や就職氷河期世代などへの支援
- ◆ 障害のある人の活躍支援
- ◆ 人生100年時代の学び直し

4. 安心と支え合いの社会づくり

- ◆ 出会いから結婚、妊娠、出産子育てまで
- ◆ 地域包括ケアシステムの構築支援
- ◆ 障害ある人の地域生活と医療・療育の支援
- ◆ 外国人県民の生活支援
- ◆ 安心できる医療体制の構築
- ◆ 困難を抱える女性・子ども・若者などへの支援

5. 豊かな時間を生み出す働き方が可能な社会づくり

- ◆ 新技術を活用した効率的な働き方の促進
- ◆ 多様な柔軟な働き方の促進
- ◆ ワーク・ライフ・バランスのさらなる普及拡大

6. イノベーションを巻き起こす力強い産業づくり

- ◆ ステーションAiを中核とした国際的なイノベーション創出拠点の形成
- ◆ 次世代産業の振興
- ◆ 中小・小規模作業の持続的発展と生産性の向上
- ◆ 産業人材の育成・確保

あいち地域別の取組方向

多核連携型の圏域構造を持つ本県においては、人口構造、産業構造、交流基盤などの状況が地域によって異なっており、本編で示した「2040年頃の社会経済の展望」も、それぞれ地域特性に応じた特徴を持つものと考えられる。

そこで、この「地域別の取組方向」では、木曾川・矢作川・豊川の3つの河川を軸として、歴史、文化、生活、産業経済等の強い結びつきを持つ、尾張・西三河・東三河の3つの地域ごとに、各地域がもつ特色や、社会経済の展望を踏まえながら、「めざすべき将来像」をしめしていく。

さらに、各地域の「めざすべき将来像」の実現に向けては、地域の潜在力や可能性を最大限高めるような政策を総合的に展開していく必要があるため、県民生活、産業経済、広域交通・交流、防災、環境といった分野ごとに「地域づくりの方向性」を示した上で、「主な政策」を示していく。

なお、少子高齢化や人口減少が大きく進んでいる三河山間地域や三河湾の離島につきましては、豊かな自然を始め魅力的な観光資源を有するとともに、県土の保全、水源のかん養、自然環境の保全等の多面にわたる機能を有している。こうした地域を支え、活性化していく取組についても示していく。



尾張地域

めざすべき将来像

多様な産業・人材の活発な交流を活かし、
スーパー・メガリージョンのセンターを担う
大都市圏の中核となる地域

尾張地域は、地域の多様な産業や人材と、国内外との活発な交流により生み出される活力を、中京大都市圏全体に波及させる役割が求められる。また、リニア中央新幹線全線開業後には、スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏の中核となることをめざす。

地域づくりの方向性

- ① 多様な人材が活躍できる暮らしやすい地域
- ② 幅広い産業に活力があり、垣根を越えてイノベーションを創出する地域
- ③ 多様な人材・産業・地域がつながり、交流する地域
- ④ 災害に強く、自然と調和した地域

西三河地域

めざすべき将来像

自動車産業を中心とする産業の活力を地域経済や
暮らしの豊かさに波及させながら、愛知の発展を牽引する地域

西三河地域は、100年に一度の大変革を遂げる自動車産業を始め、あらゆる産業の活力があふれる豊かな地域であり続けることが求められる。さらに、その産業の活力により、愛知の発展を牽引する地域となることをめざす。

地域づくりの方向性

- ① 性別等に関わらず全員が活躍できる暮らしやすい地域
- ② 基幹産業である自動車産業を始め、産業で世界をリードする地域
- ③ 広域交通ネットワークに支えられ、全国・世界との交流が活発な地域
- ④ 災害に強く、自然と調和した地域

東三河地域

めざすべき将来像

自然・文化に彩られた中で、快適な暮らしと創造性ある産業が営まれている、誰もが訪れたい・暮らしたい地域

東三河地域は、豊かな自然や特色ある文化を始めとする地域独自の魅力を発揮し、地域外の関係人口を拡大しながら、地域の活力を持続的に高めていくことが求められる。さらには、快適な暮らしや創造性ある産業と相まって、人を惹きつける地域となることをめざす。

地域づくりの方向性

- ① 快適な暮らしを営む住民と、地域外人材との交流で活力あふれる地域
- ② 新しい技術を次々と取り入れながら、産業が発展していく地域
- ③ 中京大都市圏「東の拠点」として、全国・世界とつながる魅力的な地域
- ④ 災害に強く、自然と調和した地域

